

カドミレス
黄銅棒RoHS指令対応
(カドミ75PPM以下)

サイズ

丸棒 4.5~60mm

六角棒 5~40mm

常時豊富に在庫
その他のサイズも対応
可能、お任せ下さい!

株式会社 三木商会

東大阪営業所

〒578-0921

大阪府東大阪市水走3丁目5-10

TEL 072-962-8000

FAX 072-962-8666

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836
購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

◆自動車生産台数

	5月	6月	7月
生産台数	48万9723台	74万2431台	79万326台
前月比	+67.7%	+51.6%	+6.5%
昨年対比	-30.9%	-13.9%	-8.9%

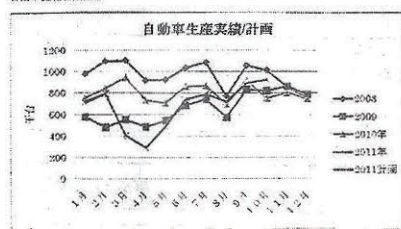
◆自動車販売台数

	6月	7月	8月
販売台数	22万5024台	24万1472台	21万6510台
前月比	+50.3%	+7.3%	-10.3%
昨年対比	-23.3%	-27.6%	-25.5%

◆生産計画台数

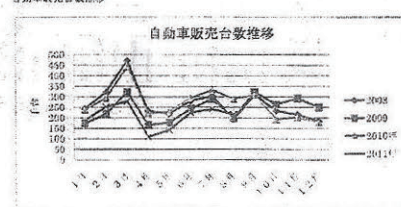
	8月	9月	10月
生産計画台数	71万9700台	89万1100台	92万4500台
前月比	-9%	+23.8%	+3.7%

自動車生産台数推移



出典 日本自動車工業会

自動車販売台数推移



出典 日本自動車販売協会連合会

◆【前月の経済指標】
◆日本自動車工業会によると自動車生産台数は前月比六・五%増の七十九万〇、三二五台であった。
◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比一〇・三%減の二一萬六、五一〇台。
◆三ヵ月間の自動車生産計画は昨年対比七%増の二五三万五千台(二面へ続く)

プラス材料難の中、ドル安による商品高期待もあったものの、米国価格下げパニックには勝てず八、八二四ドル(セツル)と一、〇〇〇ドル強暴落しての前半締めとなった。後半、パニック売りも一巡し、注目のジャクソンホールでの米FRBバーナンキ議長講演内容を好感、ガラスバーク鉱山でのストの報やICSGが銅需給の一〇五月で一六万トの不足を発表したことや、銅精錬大手PPCが年末に向けて一万ドルに向かうとの見解を示したこと、LMEと上海銅のスプレッド(値差)拡大によるアビトラージ(さや取り)の拡大や中国実需筋の買いも入り九月一日現在、九、一九七ドル(セツル)、建値七五万円のスタートとなった。



橋本健一郎氏

橋本金属
アルミ
橋本健一郎氏リポート①

新設住宅着工戸数は大幅改善

自動車の特に販売面で伸び悩む
動向は

【概況】八月前半、最大の懸念材料であった米連邦債務上限切り上げが合意されマーケット全体が安堵感に包まれたのもつかの間、上期の米GDPの下方修正や予想外の悪化、それを裏づける米ISMやPCE指数の悪化。そして史上初のS&Pによる米国価格下げ断行。さらにチリ鉱山でのストも終了。

電気銅の輸出が前月比で急増

復興需要の衣服に伴い荷余り感

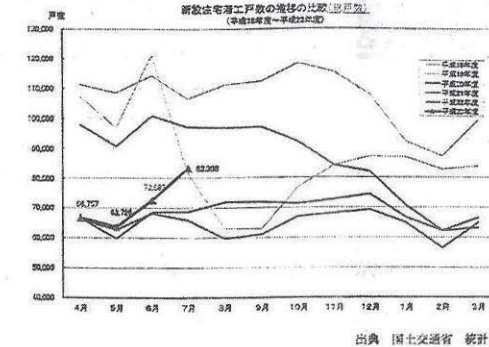
(二面より続く)

◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)一六・九%増(昨年比二一・二%増)の八万三、三九八戸であった。

	5月	6月	7月
新設住宅着工戸数	6万3726戸	7万2687戸	8万3398戸
季節調整 前月比	+2.1%	+0.3%	+16.9%
昨年対比	+6.4%	+5.8%	+21.2%

新設住宅着工件数推移



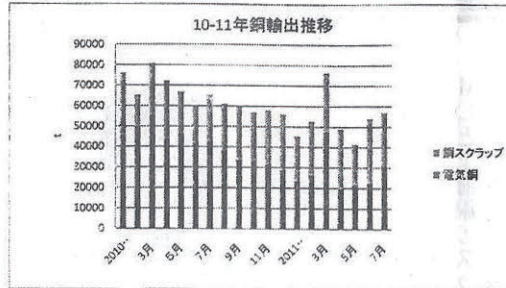
出典 国土交通省 統計

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前月比で電気銅が三六・五%増の三万〇、九一八t、スクラップが一六・九%減の二万六千t。

輸出	5月	6月	7月
電気銅	2万1984t	2万2656t	3万918t
前月比	+10.2%	+3.1%	+36.5%
スクラップ	1万9494t	3万1301t	2万6千t
前月比	-32.8%	+60.6%	-16.9%

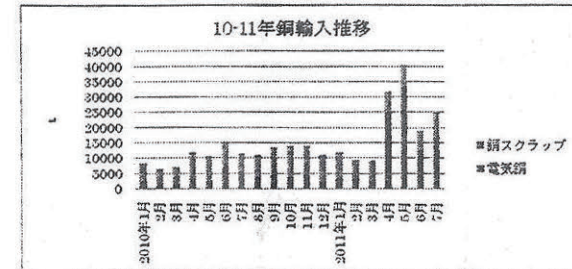
輸出推移



輸入は電気銅が前月比三四・五%増の一七、〇五三t。スクラップ二八・九%増の七、

	5月	6月	7月
輸入			
電気銅	3万3737t	1万2876t	1万7053t
前月比	+34.2%	-62.4%	+34.5%
スクラップ	6639t	6158t	7938t
前月比	-1.7%	-7.2%	+28.9%

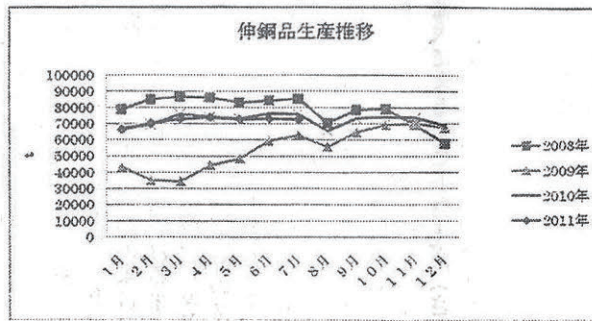
輸入推移



出典 財務省 貿易統計

【前月の国内指標】

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比〇・五%減の七万二、七七〇t(昨年対比四・一%減)。



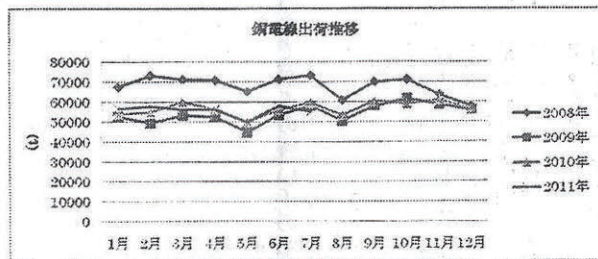
出典 日本伸銅協会

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前月比二・九%減の五万五、一〇〇tであった(昨年対比七・五%減)。(六面に続く)

自動車の伸銅品生産にどう響くか

海外銅相場は米追加緩和の行方が一つの鍵に

(二面より続く)



出典 日本電線工業会

％減の七万二、七七〇tと昨年対比(四・一％減)と二カ月連続の前月前年割れ。
また銅電線出荷量は前月比二・九％減の五万五、一〇〇t、昨年対比七・五％減とついにこちらも前年割れとなった。

新設住宅着工数は季節調整前月比一七％増の八万三、三九八戸。前年比で二二％増と大幅改善。

輸出に関しては前月に続き、復興需要の衣服からの電気銅の荷余り感から電気銅輸出が前月比三六％増の三万一千tと前月同様大幅増加。

輸入に関しては電気銅は緊急輸入の契約残があったか、前月比三五％増の一万七、〇五三tと、スクラップが二九％増の七、九三八tとなり来月の動向に注目。

銅需給に関しては、今回からついに自動車販売等について頭打ちが確認され始め、仮需需要を前提とした稼働、生産は調整され始めた。特に販売面で自動車二カ月連続で前年の八割と、大幅に伸び悩んだ。それに伴い大幅な伸銅品、黄銅棒の生産調整が行われるのではないかと。また一二倍程度の緊急輸入がされていた電気銅も今回前月比三六％増と輸出が大幅増加、需給バランスは大幅過剰と予測。

銅価格に関しては、インドネシア・グラスバーク鉱山ストや上海銅とLME銅の価格差による中国実需筋の買い増しなどプラス材料はあるが、九月開催予定のFOMCで追加的金融緩和(QE3)についての言及によつては大きく値を下げる可能性もあり、LME価格で八、八〇〇〜九、八〇〇ドル。銅建値に関しては七〇〜七八万程度と予測している。

【見通し】

需要の衣服に伴い生産調整、在庫調整が確認され始めた月となった。

自動車生産は前月比六・五％増の七九万〇、三二五台と回復基調にあり、前年比九％減と前月の一四％減からも右肩上がりの改善ペース。

しかし今回も国内自動車販売台数は二万六、五一〇台で前月比一〇％減と伸び悩み、前年比でも二五・五％減と振るわず。

復興需要品種が多い(エアコンパイプ、ガス、水回り系)伸銅品生産量は前月比〇・五

米雇用情勢、回復がストツプ

就業者数横バイ、深刻な不振露呈

米労働省が二日発表した八月の雇用統計によると、景気動向を反映する非農業部門の就業者数は季節調整済みで前月比横ばいにとどまった。市場予想を大きく下回り、昨年十月以来、前月まで一〇カ月連続で続いてきた雇用増が途絶え、米労働市場の深刻な不振が露呈された。

失業率も九・一％で前月と変わらず。景気の先行き懸念拡大で企業経営者が雇用に慎重になっていることに加え、米通信大手の大規模ストも就業者数を押し下げた。

七月の非農業部門就業者数が八万五、〇〇〇人増と、当初発表の一・一七、〇〇〇人増から下方修正されたことも、市場の不安を拡大させそうだ。

八月は、民間部門の就業者数が一万七、〇〇〇人増と、増加幅は前月の一五万六、〇〇〇人(改定)から大幅に縮小。米通信大手ベライゾン・コミュニケーションで行われた大規模ストの影響で、サービス部門のうち情報関連が前月から四万八、〇〇〇人の大幅減少となったことが響いた。